



Check!

FUTURE CENTER NEWS

フューチャーセンター通信 2014.07.02 vol.6
2014年08月15日発行号

ぎふフューチャーセンターは、大学、地域、自治体がともに地域の課題を探り、未来に向かって新しい価値をつくる対話の場で、岐阜大学の地(知)の拠点整備事業の取組みの一つです。今年度の第3回は、岐阜大学と郡上市の共同開催で、学生、教職員、郡上市職員、地域おこし協力隊(郡上市)の皆さんを交えながら、36人で郡上の未来について話し合いました。



今を知り、想像を通じ、未来を志向する

7月2日(水)に郡上市にある八幡防災センターにて「郡上市へ移住する人を増やすためには」をテーマにぎふフューチャーセンターを開催しました。開催前に学生参加者などが八幡町の市街地を見学し、郡上のイメージを持って対話に臨みました。

冒頭で、郡上市職員から郡上市の人口、市町村合併の歴史、地理などの説明があり、会場全体で市の概要を事前に学習しました。

今回は、野村典博地域コーディネーター(岐阜大学地域協学センター・写真右)によるファシリテーションのもと、対話が進められました。対話に先立ち、自身が移住者であり、移住支援をしている小林謙一さん(郡上市交流移住・推進協議会・写真左)より、どんな人たちが移住するのか、どんな理由で移住することが多いのか、実際に移住した人たちの様子など郡上市の移住に関する話をいただき、参加者は移住者視点からの移住事情を伺い知ることができました。

今回のフューチャーセンターでは、各参加者が「〇〇年後の自分」を想像(裏面参照)し自身を設定することで、当事者意識を持ちながら対話に参加できる環境づくりを工夫しました。対話は、「ワールドカフェ」というセッションごとに席替えをする手法を用いて、第1セッションでは「想像した未来の自分が、元気で幸せに暮らすために、住むのに困っている課題をどのように解決できるか」、第2セッションでは第1セッションの内容を踏まえて「郡上市に住むことになった場合、自分の問題の解決を郡上市で実現するにはどうしたらよいか」、第3セッションでは「郡上に移住する人を増やすためのアイデア」をそれぞれサブテーマとして、様々なアイデアや意見を出し合いました。

最後にグループで発表を行い、「地域で子どもを育てる」、「郡上として自立」、「おためし移住」など、多様なアイデアが出され、参加者全員で意見やアイデアを共有しました。その中でも特に移住の良い面だけではなく、負の側面も移住に際して理解してもらうことが重要であるという意見が印象的でした。

各グループからの意見・アイデア

- モノ、食べ物、エネルギー、地域通貨などを郡上で循環
- 移住する人が空き家を安く買える
- 「日本に住みたいではなく、GUJOに住みたい」を目指す
- おためし移住によって郡上の魅力(空き家+田んぼ+自然、人との関わり、お金がかからない)を知ってもらう
- 郡上が郡上として自立する
- 「コミュニティは大きな家族」という感覚を感じてもらう

郡上の移住を考える未来への対話



岐阜大学

CCSC

地域協学センター

Center for Collaborative Study with Community



FUTURE CENTER NEWS

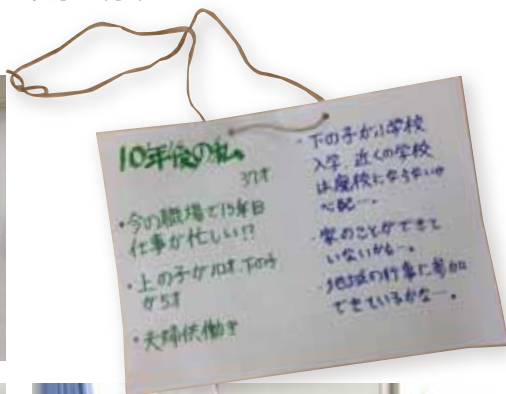
フューチャーセンター通信

Center for Collaborative Study with Community

ちょっと違う自分になる

〇〇年後の自分

参加者が現在の自分の置かれた環境で考えても意見が出にくい場合、違う自分を想像することで、意見が出やすくなることが期待できます。例えば、20歳の参加者が老後の介護について対話する時に、「老後を迎えた自分」を想像し対話することで、テーマについて考えやすくなります。今回は参加者各自が将来の自分を想像した上で、移住を増やすことについて対話をしました。A4サイズの手紙を使い、向かって左半分に将来の自分のプロフィール、右半分に将来心配していること、困っていることを記載しました。これも対話を促進させるための一つの工夫です。



普段聞けない意見は新鮮

地域おこし協力隊
吉住 耕次 さん

来場前フューチャーセンターが具体的に何か分かりませんでしたが、実際参加してみるとおもしろく感じました。郡上の地域おこしを考えている方からの意見に普段聞かれていない意見に新鮮さを感じました。世界につながる郡上を目指した取り組みができればいいなと思いました。



移住という切り口

岐阜大学 地域科学部 地域文化学科
大坪 夏希 さん

今回は移住という側面から郡上を考えることができたので良い機会でした。対話の中で「3年ごとに移住する」という永住しない意見が聞きました。「郡上が好きになったら移住する」という選択肢があってもいいと考えます。今後の地域おこしの研究に活かしていきたいと思います。



出てきた意見を今後どうするのが大切

岐阜大学 未来型太陽光発電システム研究センター
土方 尊子 さん

今とは違う自分を想像し、自分に当てはめて考えたので、対話が難しく感じました。しかし、いろんな方と対話ができるのは良いと思いました。ぜひ様々な学生が自主的に参加してもらえたらと思います。テーマに対する課題点や改善点が出てきたので、今後の活かし方が大切だと考えます。



対話することにも意義がある

郡上市職員
乾 松幸 さん

対話の結果だけを求めるのではなく、対話することにも意義があると思いました。若い方から夢を聞くことができ、少しでも市として取り組めることが具現化できれば良いと思います。「移住を考えている方には郡上の良いことだけでなく、生活する上での大変なところも伝えることが大切だ」という意見は大いに参考になりました。

CCSC
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター
TEL.058-293-3168
<http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp> [FAX] 058-293-3167
[E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人

岐阜大学



文部科学省

地(知)の拠点

文部科学省「地(知)の拠点整備事業」の支援のもと推進されています